

## 令和5年度 組織マネジメントシート

部名: 消防本部

### ■組織目標(今年度組織が目指す姿)

「第六次取手市総合計画」に掲げる、「快適で、安心できるまちづくり」実現のため、消防力の向上に向けた消防職・団員の人材育成及び施設・装備の充実強化を図る。

### ■組織使命(行政組織の存在意義、本来果たすべき役割)

消防は、その施設及び人員を活用して、地域住民の生命、身体、財産を各種災害から保護し又は防除し、災害による被害を軽減するほか、災害等による傷病者の搬送を適切に行うことを任務としている。

### ■組織目標と計画等との関連(位置づけと意味づけ)

①総合計画 基本構想	・ 快適で、安心できるまちづくり
②とりで未来創造 プラン2020	・ 安全安心対策の充実
③個別計画	・ 主要事業推進計画 ・ 消防車両更新計画 ・ 消防職員研修等計画 ・ 消防団活動環境整備計画 ・ 消防団車両更新計画 ・ 立入検査実施計画

■今年度の重点事業(自部署の中で優先順位の高いもの)

項目(何を)	行動アクション(どのように)	目標期限と達成基準
重点事業① 消防車両更新事業	常備消防車両及び消防団車両の更新については、従来の実績等を勘案した仕様書を作成し、契約後は関係者と打合せを十分に行う。また、中間検査においては、仕様書との整合性を取り確実に実施する。	令和5年度末 ・常備消防車両及び消防団消防車両等の更新完了
重点事業② 消防隊員・救急隊員の育成事業	消防に関する専門的な講習や消防学校等の専科教育を修了した職員を中心に各署所ごと教養及び訓練を行う。また、半年毎に消防本部全体で総合訓練を実施する。機関員の育成については、機関員育成プログラムに沿って、知識や技術の向上を図る。	令和5年度末 ・4月～5月訓練計画の作成 ・教養の実施率 ・訓練計画に基づく訓練実施率
重点事業③ 住宅防火推進事務事業	市ホームページ、市広報紙、市公式SNS、各種イベントをとおして住宅用火災警報器未設置世帯に対して設置を促進する。また、既に設置している世帯に対しては、定期的な点検及び10年を目安に取替えを促進することで、住宅火災による死者を減少させる。	令和5年度末 ・住宅火災による死者数0人

■職員の育成及び職場活性化の取組み

項目(何を)	行動アクション(どのように)	目標期限と達成基準
挨拶の励行と、誰もが意見を出し合える職場環境の整備、さらには部内における情報共有化の促進	各職員が率先して挨拶を行う。また、各所属におけるグループミーティングなどで出された意見や課題問題点等に対し、対策や改善案などを提案し実行可能な取り組みを行い効果的かつ、有効な消防業務を行うことにより、市民等の安全安心に寄与する。	令和5年度末 挨拶の励行 改善等結果率

## 令和5年度 組織マネジメントシート

部名: 消防本部 課名: 総務課

### ■組織目標(今年度組織が目指す姿)

計画的に職員研修等を推進し、資格や高度な知識、技術を取得させ各個人の有する能力を伸ばすことで職員全体のレベルアップを図り、多様化、複雑化する災害に対応する。また、消防団の活動環境の整備及び団員の入団促進活動を実施し、地域の防災力の向上を図り「快適で、安心できるまちづくり」の実現を目指す。

### ■組織使命(行政組織の存在意義、本来果たすべき役割)

消防の使命である、災害から市民の生命、身体、財産を守るための、組織、施設、人員等を整備し、消防力の充実を図る。

### ■組織目標と計画等との関連(位置づけと意味づけ)

①総合計画 基本構想	・ 快適で、安心できるまちづくり
②とりで未来創造 プラン2020	・ 安全安心対策の充実
③個別計画	・ 主要推進事業計画 ・ 消防職員研修等計画 ・ 消防団活動環境整備計画

■組織が果たす役割(事業・事務ごとに自組織が担っている役割の全体像)

計画 関連No.	事務事業名称	裁量 有無	協働 有無	組織の役割	担当
①②③	消防施設、装備等の維持 管理事業	○	×	各種災害対応の拠点となる消防庁舎及び各種装 備品等の適正な維持管理及び整備更新を図る。	山崎 倉持
①②③	職員人材育成事業	○	×	消防職員研修等計画に基づき職員育成を行い、 資質向上を図り地域防災力の強化に努める。	今野 野口
①②③	消防団運営事業	○	○	消防団組織の適正な運営及び団員の資質向上 に努める。	山崎 山崎
①②③	消防関係表彰業務	×	×	国、県、消防協会等の表彰規程に基づき適正に 実施する。	山崎 倉持
①②③	職員の福利厚生業務	○	×	全職員の適正な管理。	野口 萩原
①②③	消防組織、人事及び企画 調整業務	○	×	消防体制、人事全般及び各種企画の調整を適正 に実施する。	山崎 今野
①②③	消防広報及び各種統計業 務	○	×	消防広報及び統計の取りまとめを実施する。	山崎 倉持
①②③	消防予算に関する業務	○	×	消防全般の予算要望及び適正な執行。	今野 野口
①②③	諸規定の制定、改廃業務	×	×	諸規定の制定、改廃の実施。	山崎 今野

■今年度の重点事業(自部署の中で優先順位の高いもの)

項目(何を)	行動アクション(どのように)	目標期限と達成基準
重点事業① 職員の人材育成事業	茨城県消防学校や消防大学校など、教育機関で行われる専門的な研修や講習会へ適任者及び意欲のある職員を計画的に参加させ、帰庁後には、職員への教養を実施させる。	令和5年度末 ・4月、研修希望者募集 ・5月、研修者決定、計画書作成 通年 ・帰庁後、職員への教養実施
重点事項② 消防施設・設備等維持管理事業	各消防施設・設備を適正に管理するため業務委託や点検などを行い、施設・設備の適正な維持管理に務め、消防体制の万全を期する。	令和5年度末 ・随時 ・点検等に基づく改修実施
重点事業③ 消防団運営事業	消防団活動の充実強化を図るため、装備充実及び活動環境の改善を行う。また、あらゆる機会をとおして入団促進活動を展開し、消防団組織力の強化を図る。	令和5年度末 ・消防団用資機材購入 ・新入団促進活動及び研修会等の実施

■業務プロセスの改善(一課一改善以上の取組み)

項目(何を)	行動アクション(どのように)	目標期限と達成基準
総務課事務の未処理	総務課取扱い事務について、課内全員が持っているスキルをフル活用し、バックアップ体制を整え、課内共通認識のもと、スケジュール管理等を徹底し未処理チェックを行い、期限内に適切に処理する。	通年 ・未処理事務の確認

■職員の育成及び職場活性化の取組み

項目(何を)	行動アクション(どのように)	目標期限と達成基準
職員の育成と活性化	幅広い総務事務の知識を身に付けさせるため、担当する事務事業以外の支援を行わせる。なお、随時ミーティングを行い、相互に支え合う体制を構築することで、職場内の活性化を図る。	令和5年度末 ・毎月ミーティングの実施

■ニーズの把握と成果の検証、評価を把握する取組み

項目(何を)	行動アクション(どのように)	目標期限と達成基準
事務事業遂行上の課題把握	事業遂行上の課題について、改善方法を検討し、早期に対応するものと、時間をかけ検証、評価するものに分けるなど、随時ミーティングを行いスピード感を持たせ効果を上げる。	令和5年度末 ・随時ミーティングの実施及び改善の実施

## 令和5年度 組織マネジメントシート

部名: 消防本部 課名: 予防課

### ■組織目標(今年度組織が目指す姿)

第六次取手市総合計画に掲げた「快適で、安心できるまちづくり」実現に向けて、防火対象物への防火指導や危険物規制事務を適正に実施し、住宅防火推進とあわせて、火災の予防と火災による被害軽減を目指す。

### ■組織使命(行政組織の存在意義、本来果たすべき役割)

消防機関の火災予防担当部門として、組織目標実現に向け市内事業所や市民に対し、必要な防火指導を実施する。

### ■組織目標と計画等との関連(位置づけと意味づけ)

①総合計画 基本構想	・ 快適で、安心できるまちづくり
②とりで未来創造 プラン2020	・ 安全安心対策の充実
③個別計画	・ 主要事業推進計画 ・ 立入検査実施計画

■組織が果たす役割(事業・事務ごとに自組織が担っている役割の全体像)

計画 関連No.	事務事業名称	裁量 有無	協働 有無	組織の役割	担当
①②③	住宅防火推進事務事業	○	○	市ホームページ、市広報紙、市公式SNS、各種イベントをとおして市民に対し住宅防火推進の啓発を実施する。	長妻 飯田
①②③	消防長の同意審査事務事業	×	×	建築許可等についての消防長の同意を求める申請に対して、防火に関する規定への適合審査を実施する。	長妻 塚越
①②③	危険物規制事務事業	×	×	消防法に定める危険物を取り扱う施設の許認可、検査及び指導を実施する。	飯田 山崎
①②③	消防用設備等の指導事務事業	×	×	消防用設備等の着工届、設置届の審査、検査及び不備事項の指導を実施する。	石丸 小林
①②③	火災予防条例の指導事務事業	×	×	火災予防条例の規定による各種届出の審査、検査及び不備事項の指導を実施する。	石丸 山崎
①②③	防火対象物への防火指導事務事業	×	×	計画的な立入検査により、防火対象物の法令違反や不備事項の是正指導を実施する。	塚越 石丸
①②③	危険物施設への防火指導事務事業	×	×	計画的な立入検査により、危険物施設の法令違反や不備事項の是正指導を実施する。	飯田 山崎
①②③	違反是正に対応するための講習事業	×	×	市内事業所の消防法令違反を是正するため、職員に対して消防法令の専門的な講習を実施する。	長妻 飯田 塚越

■今年度の重点事業(自部署の中で優先順位の高いもの)

項目(何を)	行動アクション(どのように)	目標期限と達成基準
重点事業① 住宅防火推進事務事業	市ホームページ、市広報紙、市公式SNS、各種イベントをとおして住宅用火災警報器未設置世帯に対して設置を促進する。また、既に設置している世帯に対しては、定期的な点検及び10年を目安に取替えを促進することで、住宅火災による死者を減少させる。	令和5年度末 ・住宅火災による死者数0人
重点事業② 防火対象物及び危険物施設への防火指導事務事業	計画的な立入検査により、防火対象物及び危険物施設の法令違反や不備事項の是正指導を実施することで、火災の発生危険及び火災が発生した場合の延焼拡大を排除するとともに、危険物施設の危険物漏洩事故を防止する。	令和5年度末 ・防火対象物の火災件数 ・危険物施設の事故件数

■業務プロセスの改善(一課一改善以上の取組み)

項目(何を)	行動アクション(どのように)	目標期限と達成基準
係の垣根を越えた業務支援体制の構築(チーム予防課の構築)	始業時、各係の当日スケジュールと業務進行状況等の報告を行い、課内事業進行状況を全員で確認しあうことで各係の協力体制を構築する。	通年 ・他係の業務処理数

■職員の育成及び職場活性化の取組み

項目(何を)	行動アクション(どのように)	目標期限と達成基準
グループミーティングの奨励	公的、私的、役職を問わずに、どんなことでも話ができるグループミーティングを実施することで、課内コミュニケーションを深め、情報伝達がスムーズ化することで課内の活性化を図る。	通年 ・グループミーティング月1回実施

■ニーズの把握と成果の検証、評価を把握する取組み

項目(何を)	行動アクション(どのように)	目標期限と達成基準
市民、防火対象物、危険物施設の関係者等からの意見	寄せられた意見を的確に把握し、迅速な指導・改善を図る。	通年 ・改善が必要な意見への対策実施率



## 令和5年度 組織マネジメントシート

部名: 消防本部 課名: 警防課

### ■組織目標(今年度組織が目指す姿)

大規模地震災害や風水害等の自然災害をはじめとして、火災・救急・救助等の事案に迅速かつ的確に対応できるよう消防体制の充実強化を図り、市民の安全・安心な生活を守ることを目指す。

### ■組織使命(行政組織の存在意義、本来果たすべき役割)

消防施設・装備の充実と適正な維持管理に努めるとともに、職員の資質の向上に取組み、危機感を持って職務にあたり、市民の生命、身体及び財産を災害から守り、さらなる市民サービスの向上を図る。

### ■組織目標と計画等との関連(位置づけと意味づけ)

①総合計画 基本構想	・ 快適で安心できるまちづくり
②とりで未来創造 プラン2020	・ 安全安心対策の充実
③個別計画	・ 主要事業推進計画 ・ 消防車両更新計画 ・ 消防団車両更新計画

■組織が果たす役割(事業・事務ごとに自組織が担っている役割の全体像)

計画 関連No.	事務事業名称	裁量 有無	協働 有無	組織の役割	担当
①②③	消防車両及び消防施設装 備の維持管理	○	×	常備消防及び非常備消防における消防車両と消 防施設装備の適切な維持管理。	新井 伊東
①②③	消防水利の設置及び維持 管理	×	×	新設消防水利の設置及び既設の消防水利の維 持管理。	新井 伊東
①②③	救急・救助業務	×	×	救急・救助業務における高規格救急車、救助工 作車を含む各種資機材の整備及び適正な維持 管理。	竹村 清水
①②③	市内に配備したAEDの保 守管理	○	×	救命率の向上を図るため、市内に配備したAED の保守管理に努める。	竹村 酒井
①②③	応急手当の普及啓発活動	○	×	救命率の向上を図るため、応急手当の普及啓発 活動を推進する。	竹村 舘
①②③	救急救命士の養成	○	×	新規救急救命士の養成及び救急救命士に対す る各種研修の履修。	竹村 舘
①②③	火災調査	×	×	取手市内で発生した火災の調査。	新井 伊東
①②③	警防業務	×	×	取手市内で発生した火災等の事案に対し、事後 検証を行い、今後の対策を検討。	新井 伊東

■今年度の重点事業(自部署の中で優先順位の高いもの)

項目(何を)	行動アクション(どのように)	目標期限と達成基準
重点事業① 消防車両整備事業	常備消防の水槽付消防自動車(柵木消防署)1台と非常備消防の消防団ポンプ自動車(第4分団)1台について、これまでの実績等を勘案し、仕様書の作成及び本契約後に関係者との仕様書に基づく打合せを十分に行う。また、中間検査においては、細部にわたり、仕様書との整合性を確実に検査する。	令和5年末 ○水槽付消防自動車 ・5月仮契約 ・6月本契約 ・1月中間検査 ・3月引渡し ○消防団ポンプ自動車 ・5月仮契約 ・6月本契約 ・10月中間検査 ・12月引渡し
重点事業② 消防水利整備事業	消防水利定期点検を4月・10月に実施し、不備箇所を把握するとともに必要に応じた修繕を行い、適正な維持管理に務める。 消防水利不足地域、または水道管新設地域若しくは水道管布設替地域の必要な場所に消火栓2基を新設する。	令和5年度末 ・4月、10月の定期点検 ・不備箇所の把握及び改修等 ・新設消火栓設置2基
重点事業③ 救急救命士養成事業	新たな救急救命士1名を養成するために、救急救命士東京研修所へ職員を派遣する。 救急救命士の指導救命士研修や気管挿管病院実習及び基本特定行為再講習を計画的に履修させる。	令和5年度末 ・救急救命士資格取得1名 ・指導救命士研修1名 ・気管挿管病院実習2名 ・基本特定行為再講習12名

■業務プロセスの改善(一課一改善以上の取組み)

項目(何を)	行動アクション(どのように)	目標期限と達成基準
火災調査業務	火災形態が複雑多様化してきているなか、職員の資質向上を目指し、科学的な見解や必要な知識を教養・研修させ、火災原因を究明し類似火災の防止を図る。	令和5年度末 ・火災原因の不明割合を低減(前年度比)

■職員の育成及び職場活性化の取組み

項目(何を)	行動アクション(どのように)	目標期限と達成基準
明るく活気ある職場環境作り	明るく元気な挨拶と、課内の業務内容を全員が把握し、積極的に建設的な意見を出し合い、相互に支え合える関係を構築して活気ある職場とする。	令和5年度末 ・職員間の円滑な情報伝達

■ニーズの把握と成果の検証、評価を把握する取組み

項目(何を)	行動アクション(どのように)	目標期限と達成基準
救命講習会について	新型コロナウイルスの影響で人数制限があった救命講習会の参加人数を緩和し、多くの市民や在勤者等に救命講習会が受講できる体制を整え、救命率の向上を図る。	令和5年度末 ・年間の救命講習修了者500名

## 令和5年度 組織マネジメントシート

部名: 消防本部 課名: 取手消防署

### ■組織目標(今年度組織が目指す姿)

各種災害に迅速かつ的確に対応するため、職員の資質及び組織力の向上を図るとともに、施設等の維持管理を徹底し、快適で安心できるまちづくりの実現を目指す。

### ■組織使命(行政組織の存在意義、本来果たすべき役割)

市民の生命、身体及び財産を災害等から守るため、職員に高度な知識・技術を習得させ、消防施設・装備等を最大限活用し被害軽減に努める。

### ■組織目標と計画等との関連(位置づけと意味づけ)

①総合計画 基本構想	・ 快適で、安心できるまちづくり
②とりで未来創造 プラン2020	・ 安全安心対策の充実
③個別計画	・ 主要事業推進計画

■組織が果たす役割(事業・事務ごとに自組織が担っている役割の全体像)

計画 関連No.	事務事業名称	裁量 有無	協働 有無	組織の役割	担当
①②③	消防隊員及び救急隊員の育成	○	×	複雑多様化する各種災害に対応するため、消防隊員及び救急隊員の訓練及び研修を行う。さらに、新規機関員の養成及び既存機関員の更なる技術の向上を図る。	消防係 救助係 救急係
①②③	救命講習会	×	○	心肺蘇生法やAEDの取扱いについて、定期開催や消防訓練等を通じて市民への普及啓発を図る。	救急係
①②③	消防・防災訓練指導	×	○	防火防災体制を強化するため、事業所や市民が行う消防・防災訓練を指導する。	消防係 予防係
①②③	住宅防火対策	×	○	消防法で設置が義務化されている住宅用火災警報器の設置率向上を促進する。	消防係 予防係
①②③	立入査察の推進	×	×	防火対象物及び危険物施設に対して、定期に立入査察を実施し、違反是正に取り組み火災予防体制を確立する。	予防係
①②③	消防水利保守管理	×	×	火災時に使用する消防水利の定期的な点検を実施し、常に適正な状態を維持管理する。	消防係
①②③	火災調査書類の作成指導	×	×	職員全員が火災原因調査書類の作成能力を向上させるため、指導者による研修を実施する。	消防係 予防係
①②③	防衛計画の確立	×	×	狭隘道路、水利不足地域、強風時木造密集地域の防衛計画を確立し災害発生時の対応力向上を図る。	消防係 予防係

■今年度の重点事業(自部署の中で優先順位の高いもの)

項目(何を)	行動アクション(どのように)	目標期限と達成基準
重点事業① 消防隊員・救急隊員の育成事業	消防に関する専門的な外部セミナーや研修及び消防学校の専科教育を修了した職員を中心に各署ごと教養及び訓練を行う。また、消防本部全体で共有を図るため総合訓練を実施する。 機関員育成については、機関員育成プログラムに基づき知識や技術の向上を図る。	令和5年度末 ・4月～5月訓練計画の作成 ・教養の実施率 ・訓練計画に基づく訓練実施率
重点事業② 応急手当普及啓発事業	新型コロナウイルス感染症が5類に移行することに伴い、救命講習会がコロナ禍前の実施態勢に戻ることを広報紙等でアナウンスを行い、多くの市民に救命講習を受講していただくことで、救命処置等の知識・技術の普及に努める。さらに、今まで中止となっていた防災訓練や各種イベント等の再開が予想されることから、参加者へ救命処置等のより一層の普及に取り組む。	令和5年度末 ・救命講習会実施記録の作成により受講者数を把握 ・コロナ禍以前の受講者数を基準とした比較評価
重点事業③ 消防水利の維持管理事業	管内すべての水利点検を年2回実施し、不備箇所については、緊急性の高い箇所や消防水利の整備状況により順次改修するなど、適正な維持管理に努める。	令和5年度末 ・すべての消防水利に対する点検実施率及び不備箇所に対する修繕や改修率

■業務プロセスの改善(一課一改善以上の取組み)

項目(何を)	行動アクション(どのように)	目標期限と達成基準
明るく活気ある職場づくり	職員同士が何事も話し合える職場環境を作るため、随時話し合いの時間を設け情報交換を行い、また、お互いが信頼し合い、職員間の問題意識の共有を図る。	令和5年度(通年) ・毎月、各小隊ごとにグループミーティングを実施し、全職員からの意見を聴取

■職員の育成及び職場活性化の取組み

項目(何を)	行動アクション(どのように)	目標期限と達成基準
個人及び小隊・中隊ごとの能力を強化する。	各個人に目標を設定させ資質の向上を図るとともに、各小隊、中隊において連携訓練計画を作成させ、定期的に訓練を実施させる。	令和5年度末 ・訓練計画に基づく訓練実施率

■ニーズの把握と成果の検証、評価を把握する取組み

項目(何を)	行動アクション(どのように)	目標期限と達成基準
市民サービスの更なる向上	各種災害活動の事後検証を行い、以後の活動の向上につなげる。また、救命講習会や消防訓練等の市民と接する機会を通して、意見や要望を検討し、以後の講習会等に反映させる。	令和5年度(通年) ・活動隊の事後検証 ・講習会や消防訓練時の参加者からの意見聴取と改善が必要な意見への対策実施率

## 令和5年度 組織マネジメントシート

部名: 消防本部 課名: 戸頭消防署

### ■組織目標(今年度組織が目指す姿)

各種災害に迅速かつ的確に対応するため、職員の資質及び組織力の向上を図るとともに、施設等の維持管理を徹底し、快適で安心できるまちづくりの実現を目指す。

### ■組織使命(行政組織の存在意義、本来果たすべき役割)

市民の生命、身体及び財産を災害等から守るため、職員に高度な知識・技術を習得させ、消防施設・装備等を最大限活用し被害軽減に努める。

### ■組織目標と計画等との関連(位置づけと意味づけ)

①総合計画 基本構想	・ 快適で、安心できるまちづくり
②とりで未来創造 プラン2020	・ 安全安心対策の充実
③個別計画	・ 主要事業推進計画

■組織が果たす役割(事業・事務ごとに自組織が担っている役割の全体像)

計画 関連No.	事務事業名称	裁量 有無	協働 有無	組織の役割	担当
①②③	消防隊員及び救急隊員の育成	○	×	複雑多様化する各種災害に対応するため、消防隊員及び救急隊員の訓練及び研修を行う。さらに、新規機関員の養成及び既存機関員の更なる技術の向上を図る。	消防係 救助係 救急係
①②③	救命講習会	×	○	心肺蘇生法やAEDの取扱いについて、定期開催や消防訓練等を通じて市民への普及啓発を図る。	救急係
①②③	消防・防災訓練指導	×	○	防火防災体制を強化するため、事業所や市民が行う消防・防災訓練を指導する。	消防係 予防係
①②③	住宅防火対策	×	○	消防法で設置が義務化されている住宅用火災警報器の設置率向上を促進する。	消防係 予防係
①②③	立入査察の推進	×	×	防火対象物及び危険物施設に対して、定期に立入査察を実施し、違反是正に取り組み火災予防体制を確立する。	予防係
①②③	消防水利保守管理	×	×	火災時に使用する消防水利の定期的な点検を実施し、常に適正な状態を維持管理する。	消防係
①②③	火災調査書類の作成指導	×	×	職員全員が火災原因調査書類の作成能力を向上させるため、指導者による研修を実施する。	消防係 予防係
①②③	防衛計画の確立	×	×	狭隘道路、水利不足地域、強風時木造密集地域の防衛計画を確立し災害発生時の対応力向上を図る。	消防係 予防係



■今年度の重点事業(自部署の中で優先順位の高いもの)

項目(何を)	行動アクション(どのように)	目標期限と達成基準
重点事業① 消防隊員・救急隊員の育成事業	消防に関する専門的な外部セミナーや研修及び消防学校の専科教育を修了した職員を中心に各署ごと教養及び訓練を行う。また、消防本部全体で共有を図るため総合訓練を実施する。 機関員育成については、機関員育成プログラムに基づき知識や技術の向上を図る。	令和5年度末 ・4月～5月訓練計画の作成 ・教養の実施率 ・訓練計画に基づく訓練実施率
重点事業② 応急手当普及啓発事業	新型コロナウイルス感染症が5類に移行することに伴い、救命講習会がコロナ禍前の実施態勢に戻ることを広報紙等でアナウンスを行い、多くの市民に救命講習を受講していただくことで、救命処置等の知識・技術の普及に努める。さらに、今まで中止となっていた防災訓練や各種イベント等の再開が予想されることから、参加者へ救命処置等のより一層の普及に取り組む。	令和5年度末 ・救命講習会実施記録の作成により受講者数を把握 ・コロナ禍以前の受講者数を基準とした比較評価
重点事業③ 消防水利の維持管理事業	管内すべての水利点検を年2回実施し、不備箇所については、緊急性の高い箇所や消防水利の整備状況により順次改修するなど、適正な維持管理に努める。	令和5年度末 ・すべての消防水利に対する点検実施率及び不備箇所に対する修繕や改修率

■業務プロセスの改善(一課一改善以上の取組み)

項目(何を)	行動アクション(どのように)	目標期限と達成基準
明るく活気ある職場づくり	職員同士が何事も話し合える職場環境を作るため、随時話し合いの時間を設け情報交換を行い、また、お互いが信頼し合い、職員間の問題意識の共有を図る。	令和5年度(通年) ・毎月、各小隊ごとにグループミーティングを実施し、全職員からの意見を聴取

■職員の育成及び職場活性化の取組み

項目(何を)	行動アクション(どのように)	目標期限と達成基準
個人及び小隊・中隊ごとの能力を強化する。	各個人に目標を設定させ資質の向上を図るとともに、各小隊、中隊において連携訓練計画を作成させ、定期的に訓練を実施させる。	令和5年度末 ・訓練計画に基づく訓練実施率

■ニーズの把握と成果の検証、評価を把握する取組み

項目(何を)	行動アクション(どのように)	目標期限と達成基準
市民サービスの更なる向上	各種災害活動の事後検証を行い、以後の活動の向上につなげる。また、救命講習会や消防訓練等の市民と接する機会を通して、意見や要望を検討し、以後の講習会等に反映させる。	令和5年度(通年) ・活動隊の事後検証 ・講習会や消防訓練時の参加者からの意見聴取と改善が必要な意見への対策実施率

## 令和5年度 組織マネジメントシート

部名: 消防本部 課名: 吉田消防署

### ■組織目標(今年度組織が目指す姿)

各種災害に迅速かつ的確に対応するため、職員の資質及び組織力の向上を図るとともに、施設等の維持管理を徹底し、快適で安心できるまちづくりの実現を目指す。

### ■組織使命(行政組織の存在意義、本来果たすべき役割)

市民の生命、身体及び財産を災害等から守るため、職員に高度な知識・技術を習得させ、消防施設・装備等を最大限活用し被害軽減に努める。

### ■組織目標と計画等との関連(位置づけと意味づけ)

①総合計画 基本構想	・ 快適で、安心できるまちづくり
②とりで未来創造 プラン2020	・ 安全安心対策の充実
③個別計画	・ 主要事業推進計画

■組織が果たす役割(事業・事務ごとに自組織が担っている役割の全体像)

計画 関連No.	事務事業名称	裁量 有無	協働 有無	組織の役割	担当
①②③	消防隊員及び救急隊員の育成	○	×	複雑多様化する各種災害に対応するため、消防隊員及び救急隊員の訓練及び研修を行う。さらに、新規機関員の養成及び既存機関員の更なる技術の向上を図る。	消防係 救助係 救急係
①②③	救命講習会	×	○	心肺蘇生法やAEDの取扱いについて、定期開催や消防訓練等を通じて市民への普及啓発を図る。	救急係
①②③	消防・防災訓練指導	×	○	防火防災体制を強化するため、事業所や市民が行う消防・防災訓練を指導する。	消防係 予防係
①②③	住宅防火対策	×	○	消防法で設置が義務化されている住宅用火災警報器の設置率向上を促進する。	消防係 予防係
①②③	立入査察の推進	×	×	防火対象物及び危険物施設に対して、定期に立入査察を実施し、違反是正に取り組み火災予防体制を確立する。	予防係
①②③	消防水利保守管理	×	×	火災時に使用する消防水利の定期的な点検を実施し、常に適正な状態を維持管理する。	消防係
①②③	火災調査書類の作成指導	×	×	職員全員が火災原因調査書類の作成能力を向上させるため、指導者による研修を実施する。	消防係 予防係
①②③	防衛計画の確立	×	×	狭隘道路、水利不足地域、強風時木造密集地域の防衛計画を確立し災害発生時の対応力向上を図る。	消防係 予防係

■今年度の重点事業(自部署の中で優先順位の高いもの)

項目(何を)	行動アクション(どのように)	目標期限と達成基準
重点事業① 消防隊員・救急隊員の育成事業	消防に関する専門的な外部セミナーや研修及び消防学校の専科教育を修了した職員を中心に各署ごと教養及び訓練を行う。また、消防本部全体で共有を図るため総合訓練を実施する。 機関員育成については、機関員育成プログラムに基づき知識や技術の向上を図る。	令和5年度末 ・4月～5月訓練計画の作成 ・教養の実施率 ・訓練計画に基づく訓練実施率
重点事業② 応急手当普及啓発事業	新型コロナウイルス感染症が5類に移行することに伴い、救命講習会がコロナ禍前の実施態勢に戻ることを広報紙等でアナウンスを行い、多くの市民に救命講習を受講していただくことで、救命処置等の知識・技術の普及に努める。さらに、今まで中止となっていた防災訓練や各種イベント等の再開が予想されることから、参加者へ救命処置等のより一層の普及に取り組む。	令和5年度末 ・救命講習会実施記録の作成により受講者数を把握 ・コロナ禍以前の受講者数を基準とした比較評価
重点事業③ 消防水利の維持管理事業	管内すべての水利点検を年2回実施し、不備箇所については、緊急性の高い箇所や消防水利の整備状況により順次改修するなど、適正な維持管理に努める。	令和5年度末 ・すべての消防水利に対する点検実施率及び不備箇所に対する修繕や改修率

■業務プロセスの改善(一課一改善以上の取組み)

項目(何を)	行動アクション(どのように)	目標期限と達成基準
明るく活気ある職場づくり	職員同士が何事も話し合える職場環境を作るため、随時話し合いの時間を設け情報交換を行い、また、お互いが信頼し合い、職員間の問題意識の共有を図る。	令和5年度(通年) ・毎月、各小隊ごとにグループミーティングを実施し、全職員からの意見を聴取

■職員の育成及び職場活性化の取組み

項目(何を)	行動アクション(どのように)	目標期限と達成基準
個人及び小隊・中隊ごとの能力を強化する。	各個人に目標を設定させ資質の向上を図るとともに、各小隊、中隊において連携訓練計画を作成させ、定期的に訓練を実施させる。	令和5年度末 ・訓練計画に基づく訓練実施率

■ニーズの把握と成果の検証、評価を把握する取組み

項目(何を)	行動アクション(どのように)	目標期限と達成基準
市民サービスの更なる向上	各種災害活動の事後検証を行い、以後の活動の向上につなげる。また、救命講習会や消防訓練等の市民と接する機会を通して、意見や要望を検討し、以後の講習会等に反映させる。	令和5年度(通年) ・活動隊の事後検証 ・講習会や消防訓練時の参加者からの意見聴取と改善が必要な意見への対策実施率

## 令和5年度 組織マネジメントシート

部名: 消防本部 課名: 柵木消防署

### ■組織目標(今年度組織が目指す姿)

各種災害に迅速かつ的確に対応するため、職員の資質及び組織力の向上を図るとともに、施設等の維持管理を徹底し、快適で安心できるまちづくりの実現を目指す。

### ■組織使命(行政組織の存在意義、本来果たすべき役割)

市民の生命、身体及び財産を災害等から守るため、職員に高度な知識・技術を習得させ、消防施設・装備等を最大限活用し被害軽減に努める。

### ■組織目標と計画等との関連(位置づけと意味づけ)

①総合計画 基本構想	・ 快適で、安心できるまちづくり
②とりで未来創造 プラン2020	・ 安全安心対策の充実
③個別計画	・ 主要事業推進計画

■組織が果たす役割(事業・事務ごとに自組織が担っている役割の全体像)

計画 関連No.	事務事業名称	裁量 有無	協働 有無	組織の役割	担当
①②③	消防隊員及び救急隊員の育成	○	×	複雑多様化する各種災害に対応するため、消防隊員及び救急隊員の訓練及び研修を行う。さらに、新規機関員の養成及び既存機関員の更なる技術の向上を図る。	消防係 救助係 救急係
①②③	救命講習会	×	○	心肺蘇生法やAEDの取扱いについて、定期開催や消防訓練等を通じて市民への普及啓発を図る。	救急係
①②③	消防・防災訓練指導	×	○	防火防災体制を強化するため、事業所や市民が行う消防・防災訓練を指導する。	消防係 予防係
①②③	住宅防火対策	×	○	消防法で設置が義務化されている住宅用火災警報器の設置率向上を促進する。	消防係 予防係
①②③	立入査察の推進	×	×	防火対象物及び危険物施設に対して、定期的に立入査察を実施し、違反是正に取り組み火災予防体制を確立する。	予防係
①②③	消防水利保守管理	×	×	火災時に使用する消防水利の定期的な点検を実施し、常に適正な状態を維持管理する。	消防係
①②③	火災調査書類の作成指導	×	×	職員全員が火災原因調査書類の作成能力を向上させるため、指導者による研修を実施する。	消防係 予防係
①②③	防衛計画の確立	×	×	狭隘道路、水利不足地域、強風時木造密集地域の防衛計画を確立し災害発生時の対応力向上を図る。	消防係 予防係

■今年度の重点事業(自部署の中で優先順位の高いもの)

項目(何を)	行動アクション(どのように)	目標期限と達成基準
重点事業① 消防隊員・救急隊員の育成事業	消防に関する専門的な外部セミナーや研修及び消防学校の専科教育を修了した職員を中心に各署ごと教養及び訓練を行う。また、消防本部全体で共有を図るため総合訓練を実施する。 機関員育成については、機関員育成プログラムに基づき知識や技術の向上を図る。	令和5年度末 ・4月～5月訓練計画の作成 ・教養の実施率 ・訓練計画に基づく訓練実施率
重点事業② 応急手当普及啓発事業	新型コロナウイルス感染症が5類に移行することに伴い、救命講習会がコロナ禍前の実施態勢に戻ることを広報紙等でアナウンスを行い、多くの市民に救命講習を受講していただくことで、救命処置等の知識・技術の普及に努める。さらに、今まで中止となっていた防災訓練や各種イベント等の再開が予想されることから、参加者へ救命処置等のより一層の普及に取り組む。	令和5年度末 ・救命講習会実施記録の作成により受講者数を把握 ・コロナ禍以前の受講者数を基準とした比較評価
重点事業③ 消防水利の維持管理事業	管内すべての水利点検を年2回実施し、不備箇所については、緊急性の高い箇所や消防水利の整備状況により順次改修するなど、適正な維持管理に努める。	令和5年度末 ・すべての消防水利に対する点検実施率及び不備箇所に対する修繕や改修率

■業務プロセスの改善(一課一改善以上の取組み)

項目(何を)	行動アクション(どのように)	目標期限と達成基準
明るく活気ある職場づくり	職員同士が何事も話し合える職場環境を作るため、随時話し合いの時間を設け情報交換を行い、また、お互いが信頼し合い、職員間の問題意識の共有を図る。	令和5年度(通年) ・毎月、各小隊ごとにグループミーティングを実施し、全職員からの意見を聴取

■職員の育成及び職場活性化の取組み

項目(何を)	行動アクション(どのように)	目標期限と達成基準
個人及び小隊・中隊ごとの能力を強化する。	各個人に目標を設定させ資質の向上を図るとともに、各小隊、中隊において連携訓練計画を作成させ、定期的に訓練を実施させる。	令和5年度末 ・訓練計画に基づく訓練実施率

■ニーズの把握と成果の検証、評価を把握する取組み

項目(何を)	行動アクション(どのように)	目標期限と達成基準
市民サービスの更なる向上	各種災害活動の事後検証を行い、以後の活動の向上につなげる。また、救命講習会や消防訓練等の市民と接する機会を通して、意見や要望を検討し、以後の講習会等に反映させる。	令和5年度(通年) ・活動隊の事後検証 ・講習会や消防訓練時の参加者からの意見聴取と改善が必要な意見への対策実施率